

投資に関するバイアスを知って、
資産運用に役立てる

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

投資家の何気ない行動や判断が、時として陥りがちな落とし穴になることがあります。投資行動に関するバイアス(偏見、先入観)への認識を高めることで、そうした危険性を避けることが期待できます。

投資家のバイアスには様々なものがありますが、まず、投資家はしばしば短期的な一部の損失にばかり目を奪われがちで、ポートフォリオ全体の状況を考慮せずに判断する傾向があります。さらに、利益と損失では損失の方が強く印象に残るため、個別資産の短期的な損失に敏感に反応し、ポートフォリオ全体のリスクを抑えすぎて長期的なリターンが低水準に留まったり、資産運用をやめてしまう場合もあります。逆に、損失を取り戻すためにリスクを取りすぎる場合は、大きな損失につながることもあります。

つぎに、投資家は理屈で理解していても、実際の行動には移さないことがしばしばあります。特に、先行き不透明感がある場合などは、買い増しや売却などの悩ましい決定を先送りしがちです。また、よく知っている資産に好んで投資する傾向があるため、分散投資の重要性を分かっているにもかかわらず、例えば、馴染みのある日本株式に偏ったポートフォリオになっている場合があります。

最後に、投資家は自分を過信しがちです。将来を予測することはかなり困難であるにもかかわらず、自分は有望な投資先を選ぶことができると信じて、単一の投資先に資金の多くを投資してしまいがちです。さらに、投資家が幸運と投資手腕を勘違いして、頻繁に売買する場合、長期投資のリターンに及ばないことがしばしばあります。

短期的な損失にばかり目を向けないようにするには、分散したポートフォリオ全体を把握したうえで、ポートフォリオを頻繁に確認しすぎない方がよいとされています。また、積立投資などの規律ある投資行動は、先行き不透明感が漂う中でも、合理的な投資行動(安い時に買う)につながります。このように、投資の成功を妨げる様々なバイアスを知って役立てることで、長期的な資産運用の成功に近づくと期待されます。

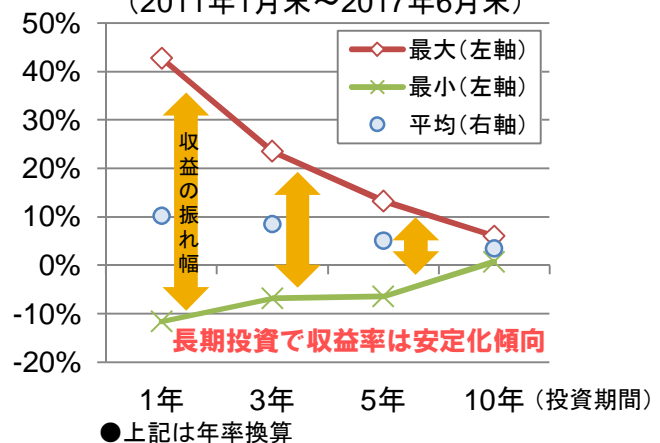
分散したポートフォリオのパフォーマンス

(2007年1月末～2017年6月末)



分散したポートフォリオの収益率

(2011年1月末～2017年6月末)



※分散したポートフォリオ: 日本株式、先進国株式、日本債券、先進国債券に25%ずつ投資し、月次リバランスしたもの

※日本株式: TOPIX(東証株価指数、配当込み)、先進国株式: MSCI KOKUSAIインデックス(配当込み)*、日本債券: NOMURA-BPI総合、先進国債券: シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース) *米ドルベースの指数を日興アセットマネジメントが円換算

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。